

別紙 「平成31年度 学力向上アクションプラン」

足立区立鹿浜第一小学校 学校長 木村 浩昌

	新 継	アクションプラン	対象・実施教科	頻度・実施時期	具体的な取り組み内容 <誰が、何を、どのように>	達成確認方法	達成目標 (=数値) <いつまで・何を・どの程度>
1	継続一 部改善	朝読書	全児童 国語	毎週火水金 始業前15分	【指導者体制】 担任 【取り組みのねらい・目的】 ・読書の興味や読書習慣を身に付けさせる。 ・図書を選択する力を養う。 ・読書したことを適用させる。 【指導方法】 ・読み聞かせ、ブックトーク ・各教員によるブックトーク(朝会時年間16回) ・テーマ読みやシリーズ読みなど。	1か月に1回、読書感想文やお薦めの読書を発表する。	年齢相応の本を 低学年2500ページ中学 年5000ページ高学年1 0000ページを目標に読 書に取り組みせる。
2	改善	音読・朗読・群読	全児童 国語	隔週木と土 始業前15分	【指導者体制】 担任(学年) 【取り組みのねらい・目的】 ・詩や名文を暗記、暗誦する機会を設け、自国の文化の美しさに触れるとともに、美しい日本語に馴染む習慣を付ける。 ・暗記した詩や名文を群読化し音声表現力の向上を図る。 ・音読、群読の内容を外国語にも広げ、外国語教育や国際理解教育、オリンピック・パラリンピック教育とも関連させ、内容を深めていく。 【指導方法】 ・学習カードを利用した個別指導 ・担任による一斉指導	・学年音読・群読として発表の機会を設ける。 ・学年内で感想をまとめ、発表者へのフィードバックを行なう。	・学級及び学年での暗記、暗誦、群読指導の時間・・・毎月2回、年間20回
3	継続	昼学習 (パワーアップタイム)	全児童 国語 算数	毎週月火水金 5時間目前15分	【指導者体制】 担任 【取り組みのねらい・目的】 学習内容の復習・確認を行う。 【使用教材】 漢字、計算のプリント学習、ベーシックドリル	5月、12月、2月の3回、テストを実施	テストで正答率80%が100%になるようにする。
4	継続	放課後補習教室	全学年 国語・算数の単元テストの正答率70%	原則会議のない日は毎日。 放課後16:20ま	【指導者体制】 担任+副担任 4名 【取り組みのねらい・目的】 ・現学年の学習内容のプリントやドリル学習をし、	単元ごとに小テスト、また単元テストの再テスト	テストで全員が目標値を通過する。

			未満、宿題未提出者	で。	現在学習している内容をきちんと身に付けさせる。 ・宿題が提出できない児童に対しては、その日のうちに放課後指導等で課題を終了させてから下校させる。		
5	改善	サマースクール	全学年算数②③各学年約10名程度。	夏休み期間中の10日 各日50分	【指導者体制】担任+副担任 4名 【取り組みのねらい・目的】つまずきをさかのぼり、演習を中心に個別もしくは少人数指導。進度は各個人で異なるが、復習問題は、期間内に終了するように、1日に進める目安は伝える。 【使用教材】次へのステップ、ベーシックドリル担任の少人数指導のもと、進める。過去学年にさかのぼったつまずきをベーシックドリルで確認し、解けなかった問題の解き直しや週の授業内容で理解が完全でない内容の補充問題を行う。 *管理職による個別指導（プレジデントタイム）実施→2、3年生の下位層児童を対象	夏休み終了後、確認テストの実施	夏休み終了後のテストで全員が目標値を通過する。
6	継続一部改善	教師の指導力向上	若手教員研修会の実施 ミドルリーダー研修会の実施 授業観察アドバイスシート	年間30回 年間10回 毎月一人当たり1回ずつ（10回×教員数）	【指導者体制】 ・若手教員研修（校長、主幹教諭、主任教諭） ・ミドルリーダー研修（副校長、主幹教諭） ・授業観察（校長、副校長） 【取り組みのねらい・目的】 ・足立スタンダードによる授業をしっかりと定着させる。 ・学習環境を整え授業規律を徹底させることを基本とし、授業に集中できることをあたり前とする。 ・学力調査の結果について詳細を分析し、その具体的な方策をたて、全教員が一丸となり徹底して実践を継続していく。 ・問題解決的な学習を実施し、主体的・対話的で深く学べる学習の機会を増やし、授業を充実させる。	・管理職による週の学習計画の確認 ・各研修会時のワークシートの確認と評価 ・授業観察後の「アドバイスシート」内自己評価の確認と評価	アドバイスシート自己評価 全項目B以上

7	新規	家庭学習	家庭学習の充実	宿題提出率全学級 100%	<p>【取り組みのねらい・目的】</p> <p>① 家庭学習は学びの定着のために大切であること。 ② 子供の仕事は「学ぶこと」であること ③ 大人になって毎日働くための準備として、毎日きちんとやるべきことをやること＝宿題を毎日やること、は大切なことであること。</p> <p>以上を児童及び保護者にも周知徹底し、家庭学習の充実を含めた学力向上を図る。</p>	<p>・個の能力や状況にあった課題の作成 ・一律のものをやらせる」宿題のイメージから、個の学力の補充を行う、将来のためにまず毎日家庭で学習する習慣を身に付けさせるというコンセプトで進める。</p>	<p>・各担任による目標値の設定及び進捗状況の確認（自己申告書及び面接を活用する。） ・年度末には提出率100%にできる限り近づけることを目指す。</p>
---	----	------	---------	------------------	---	---	--